

鳥羽の

しごとの魅力を伝えたい!

皇學館大学2年生3人が「産業社会実習」として、市役所で実際に働くインターンシップに参加しました。地元の協力事業所を取材し、冊子作成中です。若者の目に鳥羽のしごとがどう映ったのか、作業中のみなさんに感じたことを話していただきました。

農水商工課商工労政係 ☎ 25 1156



河原由菜さん



北村航大さん



中島龍太郎さん

観光地・鳥羽のおもてなし
現場で感じたことは

河原さん 鳥羽展望台や鳥羽

シーサイドホテルでしごと体験や取材をさせてもらい、きれいな景色を見ながら働けるのがうれしかったです。また、現場のかたがたが施設のこと以外に海女や観光施設など、地域の情報をちゃんと知っていて、その魅力を来訪者に伝えてくれるのがすごいと思いました。私自身も刺激を受け、地域のことを知りたくなり、休日に鳥羽の各地に行ってみました。

北村さん ホテルの現場でインターンシップをしている他

の学校の学生に取材しました。最初は正確な情報を覚えるのに苦労したのですが、「客室まで案内をした時にお客さんからお礼を言われるのがうれしかった」と言っていました。働くことは大変ですが、その醍醐味は誰かの役に立つことなのかもしれないと思いました。

漁協や福祉施設、ものづくり
事業所での取材の感想は

北村さん 漁協の取材で市場や直販事業、直営食堂の魚々味などさまざまな現場に行きました。市場に漁師さんの船が着くたび、駆け寄って魚を受け取っている姿が心に残りましたし、鳥羽の魚の認知度を上げるための努力や、鮮度保持や衛生管理に気を付けてより高く取引されるよう工夫しているという話が興味深かったです。また、漁業をサポートしているみなさんの前向きな姿勢も印象に残っています。現場では、若い人から年配のかたまで、和気あいあいと作業をされていて、働く上でしごとの場の雰囲気づくりは大切だと感じました。

中島さん 陽光苑での取材でも同じように感じました。利用者一人一人に合わせたきめ細かいケアを行うのは本当に



漁協の取材現場にて

大変そうでしたが、日常会話やレクリエーションを職員さんも楽しんでる様子が見られ「利用者が喜んでくれるとうれしい」「人生の先輩にいろいろ教えてもらえる」とおっしゃっていました。今回の取材で、しごとでは喜びと誇りを感じられることが大事なのではないかと思いました。

小林鉄工所でステンレス加工の現場を見せていただいた時にも一流の技術者の自信を感じました。作図や曲げ加工、溶接など、各工程で難しそうな作業を熟練の技でこなしていくのが格好よかったです。できあがったものは他の企業の部品となり、海外に輸出されることもあるそうで、日々積み重ねている作業が日本のものづくりを支えているのだと気付きました。



小林鉄工所にて

今回は市役所の一員としてしごと体験をしましたが

中島さん 今まで行政はデスクワーク中心だと思っていたので、市役所職員が地域に足を運び、話を聞く機会がとて多いことに驚きました。今回は実際にいろいろな立場の人から話を聞き、社会に触れるという大学の授業では学べない体験ができました。

河原さん 取材させてもらった事業所のかたはみなさん生き生きと働いていました。私の役目はそのしごとの様子を冊子にまとめ、就業体験希望者に伝えていくことです。感じたことを表現する難しさにぶつかっていますが、今回お会いしたみなさんが、鳥羽が好きで、鳥羽のためになればという思いを持って働いていることに感銘を受けたので、それをしっかり伝えていきたいです。



鳥羽展望台でのしごと体験